

平成 22 年理事総会の年頭にあたり

横尾 一彦

平成 22 年の新春を迎え 本年もよろしくお祝い申し上げます
昨年は新政権が誕生し 少しは世の中の流れが変わることを期待したい思います。私も本年 70 才の古希を迎えることとなりました「人生七十古希なり」朝より回りて日々に春衣を典し 毎日江頭に酔いを尽くして帰る 酒債尋常に行く処に有り人生七十古希なりと中国の詩にありますように 70 才迄生きることはめでたくもあり 大変なことであったと云うことでもあります、私もこれからの人生を 粛々と生きていきたいと思ひます。自ら与えられた人生を老いてなお「うるわし」と言われるような日々を送りたいと願っております。

本年、協会発足 35 周年を迎えますが これも偏に歴代の役員を初め皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

理事におかれましては毎年申し上げますように健康で現職を大切にされ 家庭を大事にさせていただきたいと思ひます。どうか「親孝行したいときには親はなし」にならないよう伴侶を大切にさせていただきますようお願いいたします。

「人間生きていることが奇跡である」という大きな気持ちでこれからの人生を生きていこうではありませんか。それには健康が一番ですが WHO 世界健康機構の「健康について」の定義には「健康とは病気ではないということではない何事に対しても 前向きな姿勢で取り組めるような精神、肉体及び社会的適応状態をいう」と書かれております どうか皆さんもその考え方で 今一度健康に取り組んでいただければ幸いです。

私自身も健康に職務を務めてまいりますが「ちりぬべきときを知りてこそ花は花なれ人は人なれ」と細川ガラシャの辞世の句にありますようにやがて来る幕引きを背に受けて一年一年を大切に行動をいたす所存でございます。